

## 第15回 ふじみ新ごみ処理施設整備市民検討会 会議録（要旨）

- 1 開催日時 平成20年10月31日（金）19時00分から20時55分
- 2 開催場所 ふじみ衛生組合大会議室
- 3 委員出欠 出席11人
  - ・出席委員 荒木千恵子委員、大江宏委員（会長）、河本美代子委員、佐藤俊夫委員、寺嶋均委員（副会長）、中澄子委員、藤生よし子委員、増田雅則委員、松井和夫委員、村越晴美委員、吉野正徳委員
- 4 出席者  
事務局 高畑智一、内藤和男、齋藤順計、深井恭、大木和彦、荻原正樹、木村晴美、田中實、井上稔総務主幹、斉藤忠慶清掃主幹  
財団法人日本環境衛生センター 速水章一、藤原周史  
パシフィックコンサルタンツ株式会社 宇田川学
- 5 傍聴者 8人

### 【議事次第】

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 報告事項
  - （1）第14回市民検討会議事録の確認
  - （2）事業者選定委員会について
- 4 議題
  - （1）煙突の形状とデザインについて（その2）
  - （2）稼働後のモニタリングについて（その2）
  - （3）本市民検討会でのまとめについて
- 5 その他
- 6 閉会

### 【配布資料】

#### 議事次第

- 【資料1】第14回 ふじみ新ごみ処理施設整備市民検討会 会議録（要旨）
- 【資料2】煙突の形状とデザインについて（その2）
- 【資料3】稼働後のモニタリングについて（その2）
- 【資料4】本市民検討会でのまとめについて

## 【会議録】

午後7時00分 開会

### 1 開会

【事務局挨拶】

【出席者の確認】

【配布資料の確認】

### 2 会長あいさつ

【会長挨拶】

### 3 報告事項

#### (1) 第14回市民検討会議事録の確認

会長 : 修正等の気づいた点はあるか。

副会長 : 最後のページで、上から5行目「国の化学研究」となっているのを理科の「科」に直していただけるとありがたい。それから、下から3行目、「そしてバグフィルターでろ過されて」という形で、ひらがなで「ろ」という字を入れていただくとありがたい。

会長 : 文字の訂正後、公開手続に入る。

#### (2) 事業者選定委員会について

【事務局説明】

D委員 : 第2回事業者選定委員会で配布された実施方針において、「なお、この民間事業者は約30年間のプラント使用を前提として設計、建設及び運営を行うこととします」と明記されており、30年間の寿命の施設をつくるということである。私どもは、計画当初から、この施設は20年間の施設だと聞いているが、これでは、初めから30年間もつ施設を事業者につくりなさいとはっきり言っているように理解する。なぜ、ここで30年の施設が出てくるのかわからない。

事務局 : 実施方針では、事業の運営期間は20年間となっている。今、考えているのは、20年の運営期間の中で、安定的にしっかりとした運営を行いたいということで、そのためには、20年間を確実に担保できるしっかりとした施設が必要である。そうした中で、30年間程度もたせるしっかりとした施設であるべきだという視点も加味しており、DBOによる運営期間は、20年間であると理解いただきたい。

D委員 : もう1つは、この業界の談合体質についてである。これから実施する事業者選定において、談合をさせないための予防措置、対応策をどんなふうに進めようとしているのか。

事務局 : 今回、事業者を選定するに当たっては、総合評価一般競争入札という手法

を採用したいと思っている。この手法は、金額、それから事業者からの提案内容を総合的に評価するもので、金額や提案内容を点数化して、その合計得点の一番すぐれたところに事業を発注するものである。また、その選定基準や選定結果についても市民の皆様公表するため、談合は起きにくいと考える。

会長 : 公開と、透明度が大切になると思う。その面で、市民の皆さんに情報公開されることが一番のチェックになると思う。

#### 4 議題

##### (1) 煙突の形状とデザインについて(その2)

###### 【事務局説明】

K委員 : 煙突の幅が高さの1/10ということは、高さが100メートルだと、煙突の一番上が10メートル必要ということか。

事務局 : 基本的には、煙突の幅10メートルはすべての部分で超えている必要がある。普通の煙突は、下が太くて上に行くにしたがって細いか、寸胴のどちらかであるので、実際には、一番下の部分と上の部分がそれぞれ10メートルを超えているというのが定義である。

K委員 : 幅とあるが、これは丸でも四角でも、10メートルあれば良いということか。

事務局 : 一番細いほうから見て10メートル必要なので、見方によっては丸が一番細く見える。四角だと横幅は10メートルだが、斜めから対角線で見ると10メートルを超える。そういう面では、丸が一番すっきりした形になると思う。

D委員 : 前回も問題になったが、圧迫感というのは感情の問題ではないが、経済的な比較もお願いしたい。煙突の幅を広くすれば建設費が嵩むと思う。一方、煙突の幅を細くして電気設備を設ければ、その寿命とか、それから電気代がかかる。そういうものの比較を行って、どちらがどれぐらいの経済的に負担があるのかを判断した上で決めさせてもらいたい。

もう一つ、円筒は周長が2割ほど少ないわけで、材料費、工事費が安いと思う。もし可能であれば、円筒の場合と四角の場合と、どの程度工事費が違うのか、変わらないのか、これも示した方が良い。

経済的な負担がそれほどでなければ、煙突の幅は10メートルにしたほうが良いというのが、私個人の意見である。近隣に住む方があのチカチカは困ると言うのをいまだに覚えていて、100メートルを主張した人間として申しわけないという気持ちもある。できれば煙突の幅を広くして、光がないようにした方が良いというのが私の個人的意見である。

会長 : コストの比較はどうか。

日本環境衛生センター :

厳密な比較は、実際に2種類の煙突を模擬設計して、そして細部のコストを出さなければならないため厳しいと思う。

10メートルにすれば体積の分の建設工事が増えるが、一方で、航空障害灯といふかなり複雑な設備を設置しなければならない。大型のストロボをたくようなことなので、電源の設備もかなり特殊で高度なものである。また、極めて大きく特殊な発光体であるので、このランプも数十万～100万円近くする。それを4方向につける必要がある。メーカーのカタログを見ると寿命は大体1年から2年ということであるが、輝度が落ちたりすると途中交換ということもある。

煙突の幅が8.5メートルから7.5メートル程度のことであれば、複雑な電源設備、それから数多くの特殊な発光設備といったもの、それからそれを支えるためのいろいろな附属設備を考えると、建設費について有為な差を見出すのは難しいと思う。

維持管理費についてみると、少なくとも1年おきにはランプ交換していかなければならない。予算の平準化から、年間およそ100万円単位のお金が掛かる。加えて、電気設備があり、エネルギー消費もある。

維持管理の過程からみると、10メートルの太さの簡易な設備を確保したビル型煙突の方が経済的にはすぐれていると思われる。

詳細な設計に基づいての計算結果ではないが、定性的な評価をするとそのような内容になる。

会長 : 円筒形と四角形はどうか。差はあるのか。

日本環境衛生センター :

材料的には、円筒形というのが一番経済的であるが、例えば塗り直しをするといったときに、曲面なので作業的に苦労したことがある。一方で、四角形となると、足場の固定も比較的容易になるので、作業性では比較的安心ということがある。

電波障害については、デジタル化なのであまり不安はないが、円筒形だと電波の反射が四方八方に散り、反射障害が出たときはかなり広範囲に想定しなければいけない。あとはデザイン性、住民の方々に受け入れていただけるデザインということでの議論になるうかと思う。

会長 : 基本的な情報をいただいた。

一応、方向として、煙突の幅は10メートル以上ということになるか。柳泉園の煙突は幅が8.5メートルの丸形であり、それと比較すると1.5メートルぐらい増える形になるが、四角型にするか丸型の10メートルでいくのか、好みで結構なので意見を出していただきたい。

E委員 : イメージ的には円筒形がいいと思う。焼却施設は市民から見ると、かたく特殊な施設のように思う。煙突も少し好感が持てるようにした方がかえって

住民としての感性がいいと思う。

会長 : 角型の好みの方は、おいでにならないか。

A委員 : 角型にして、4面あるので、そこに例えば公募して4名の方のデザインをつけるとか、あとは、作業する方の安全性も考えると、曲面よりは平面が良いのではないか。

D委員 : 先ほどのデジタル化について、テレビのデジタル化は判るが、そのほかの電波障害は、円筒と角では、どの程度差があるのか。

日本環境衛生センター :

テレビの電波以外ということだが、基本的には遮へい障害についてみれば日陰と同じようなもので、電波が一定方向から来るその裏側というのは、何らかの障害が予想されるので、対策が取られる。断面形状による差はない。

曲面において拡散する電波の反射範囲という考え方の違いが基本的な差になるかと思う。

副会長 : このデザインに関しては、感覚の問題だと思う。

丸型の煙突は、どうやってつくるのか、なかなか難しいと思うが、今は丸でもコンクリートを打つためには内側と外側に、鉄板でつくった枠を2重につくって、そこに打っていく。今はスライディングフォームといって、上にどんどん上げていく方法ができ、四角でも丸でも比較的簡単にできるようなある。

四角より丸のほうがコンクリートの使用量や鉄筋の量などは、相当節約できると思うので、建設費は丸型のほうが安くなると思う。丸は直径で10メートル。四角だと、一辺は10メートル、対角線は14メートルになる。それだけ大きな構造体になるし、電波などの遮へいに関してそれだけ余分に、裏側はなるかもしれない。

四角で、デザイン的に4面を使うことは1つの宣伝効果ということで、意図的に使うのであれば、一つのおもしろい考え方かもしれないが、躯体の建設工事は、かなり差が出てくると思う。また、強度的な面でも、丸のほうが安定した構造体になるのではないか。

L委員 : 塗装の点ではどうか。

副会長 : 塗装するときには丸いドーナツのようなものをつくって下げてきて作業をしている。あるいは、上から湾曲したような足場を吊り下げてやっている。

会長 : 幅10メートルというのは、角型の場合、対角線で測って10メートルでよいということか。

事務局 : 一番狭く見えるところで10メートルである。対角線では14メートルである。

F委員 : 排ガスのサンプリング場所を煙突の真ん中ぐらいに設置すると以前に聞いたが、煙突の形状が円か四角かで変わってくるのではないかと思う。

副会長 : 煙突の外側が10メートルというと、コンクリートの厚みが20か30センチぐらいの大きなコンクリートの枠になると思う。下までいくとあるいは50センチぐらいになるかもしれない。そうすると、煙突の一番トップのところでも内径が9メートル50センチか、9メートル以上ある。

パシフィックコンサルタンツ :

煙突の内筒という煙が通るところは、1本1メートルで環境アセスを計画している。煙突の内筒の内径自体は95センチぐらい、1メートル弱で考えている。

副会長 : 煙突外筒の内径が9メートルに対し、煙の通る内筒は1メートルぐらいのものが2本入るだけである。そうすると、外側の外筒というコンクリートでできたものとの間にスペースがかなりあるので、そこに上まで上るための階段だとか、そういう排ガスをサンプリングするためのステージなどを設置しても十分な広さだと思う。

F委員 : 階段は梯子みたいのではないのか。

副会長 : そういう形でもできるし、らせん階段などもできる。そういう階段と、排ガスをサンプリングするためのステージも十分に取れる。

会長 : 逆に、円筒形の場合もそうだが、どれぐらい一番狭くできるのか。何メートルの煙突があれば間に合うのか。

今、10メートルでやっているが、柳泉園の場合は8.5メートル(頂部は7.5メートル)の円筒形だが、もっとコンパクトにできるのか。内筒1メートルぐらいのものが2つ入って、そのほかのスペースが十分にある気がする。

事務局 : 柳泉園の場合は、3炉構成なので、内筒が3本入っている。

本計画では2炉構成であるため2本の内筒と、臭突加えて計3本を計画している。

会長 : 何か10メートルなくてはならないみたいに思っているが、案外細くて済むのかなとも思う。

副会長 : 煙が通ると、オーバーホールや何かのときに焼却炉が止まったときに、活性炭を通して脱臭した空気を、屋根から出す手もあるが、それを高いところから出したほうがいだろうという形で、今、もう1本、臭突というものを入れたらどうかと考えているようなので、3本入るわけである。柳泉園が3炉で3本入っている。炉規模が同じくらいであれば、7メートル50か8メートルという感じになるのではないか。

会長 : 建設コストの違いという話があって、大分違うのであれば、細くなればもっと違う気もする。ピカピカなどの付帯設備について、いろいろな意見が出たという気がする。そういうことを総合的に検討していただき、決めざるを得ないと思うがいかがか。

F委員 : 見た目は丸のほうが、感じがいい。

- 副会長 : やわらかい感じがすると思う。
- G委員 : 強度についてはどうか。
- 副会長 : 角でもちゃんとした強度をもたせるが、丸のほうが私は良いのではないかと思う。
- 会長 : このフォトモンタージュでは角型が採用されているが。
- K委員 : 多面体というのは。例えば八角形以上とか円に近い。コストはかかるが。
- 事務局 : 多面体は技術的には可能であるが、建設費もそのあとの維持管理も大変だと思う。コスト的にはどうしても上がる。
- H委員 : 三鷹市環境センターの煙突の形はどうか。検討して決めたのか。
- 事務局 : 三鷹市環境センターの煙突は四角である。おそらくメーカーからの提案で四角になったのではないかと思う。
- F委員 : 風の圧力というのは、四角と丸と、どのように違うのか。丸のほうが風を避けやすい気がする。そういうのを加味して丸のほうがいいと思う。
- G委員 : 強度の面、経費の面、風力の面からすると、どうしても円がよさそうに思う。今のところ四角のメリットが出てこない。
- 会長 : 四角を推す方、ほかに意見はないか。
- 事務局 : 強度については構造計算をしっかりとやるので、四角だからすぐ壊れてしまおうとか、そういうことはなく、丸でも四角でも、しっかりしたものをつくる。
- 会長 : ここでは、煙突の形状について、丸を推す意見が多かったことを総合して、事務局案をつくっていただきたいと思う。いかがであろうか。

(「異議なし」の声あり)

## (2) 稼働後のモニタリングについて(その2)

### 【事務局説明】

- F委員 : 三鷹市と西秋川衛生組合は公害監視盤が無いという説明があったが、その割に騒音と振動がほかのところよりも多くやっている理由が聞きたい。
- 三鷹市にも二酸化炭素、一酸化炭素、窒素酸化物などの数値が、私たちが市役所に行っても、わかる形をとっていただけたらと思う。水銀や鉛という重金属の数値をせめて1年に1回ぐらいは、これはぜひきっちり調べていただきたいと私自身は思う。最善の最先端に行く数値の発表が必要になってくると思う。
- 会長 : これについて、何か意見はあるか。
- I委員 : 公害監視盤はつけていただきたいと思う。大きさ、サイズは決まっているのか。それから、多摩川衛生組合の測定頻度について説明していただきたい。
- 事務局 : 公害監視盤の大きさについて、これは特に決まった大きさはないので、皆さんが見やすい大きさということになると思う。設置の場所によって、ある程度制限はあるかもしれないが、皆さんが見えるサイズということである。
- 多摩川衛生組合の測定頻度について、色々な種類の項目があり、その種類

によっては年6回、ほかの種類によっては18回ということで、種類によって回数が違うということである。

G委員 : 排ガスの件で、いろいろな化学物質が日々開発され、何が出てくるかわからない現状では、その他の検査の項目は、回数を多くしていただきたい。

それから、下水放流水質については、今、非常に大きな問題になっているが、やはり加害者になりたくないの、小平・村山・大和衛生組合は12回やっているがこの程度できるといいと思う。

会長 : その他の中身の例を挙げていただけると助かる。

事務局 : 排ガスのその他の中身は、基本的には公害監視盤に書いてある表示項目がメインである。塩化水素、硫黄酸化物、窒素酸化物、一酸化炭素、ばいじんといったものが、その他の項目になるとお考えいただければよろしいと思う。

ふじみ衛生組合独自ということであれば、水銀の自主基準を設けたので、上記項目に水銀が加わる。

D委員 : 先ほどから問題になっている重金属だが、今までは表示はしていないかもしれないが、これから増えてくる可能性は十分あると思う。

好むと好まざるとにかかわらず、これからプラスチックは増えるに違いない。プラスチックには触媒があって、ここに重金属は明らかに入っている。それから、携帯電話なども必ず焼却物の中に入ってくるので、そういうものには重要な発ガン性物質も入っているので、重金属をきちんと計っておかないと、今はないからいいということにはならないと思う。

副会長 : 公害監視盤に表示する項目だが、酸性ガスは、比較的連続的に測定できる項目が主体になっている。重金属では、唯一ガス状の水銀だけが何とか連続的に測定できる。水銀は通常の水銀でも表に出しておくとも常温でも揮発し、ガス状になるので、連続測定計器が今、開発されている。

ただ、それ以外の重金属に関しては、ガスを長時間サンプリングして、ばいじんの形で分析しないと濃度を出せないため、連続測定計器というのは残念ながら無い。ばいじんが、ここでは法規制値の0.04に対して0.01である。バグフィルターというのはばいじんが非常によく取れるので、ばいじんの量を把握し、それが0.01という基準値以下に納まっていれば、目安として、重金属についても心配は要らないという判断ができるかと思う。

連続的に重金属が測定できるものは、ガス状の水銀に今のところ限られてしまっているという点で、ここに表示するものについては、項目が限定されることは承知おきいただきたいと思う。

D委員 : 連続的に計れないものはしょうがなくとも、きちんと計るべきだろうと思う。

ばいじんの主成分は炭化水素、煤みたいなものではないのか。ばいじんが少ないから重金属が少ないということがイコールにはならないと思う。

- 副会長 : 正直言って、いろいろなものが混じっているのではないかと思う。そういう煤的なカーボン、未燃カーボン。ただ、未燃カーボン等に関しては、今焼却炉の性能がよくなってきていて、非常によく燃えているのではないか。特にダイオキシン対策で燃焼室の容積を広くして滞留時間2秒間を必ず確保するので、未燃ガス分が非常に少なくなる。温度が下がって、炭化物としてばいじんに出てくるかもしれないが、炭化物以外に不燃物、重金属の鉛類、塩化鉛、そのほかの重金属類もあるかと思うが、それは固体状になると、バグフィルターのところではキャッチされ、煙突から出ていく量はヨーロッパの厳しい重金属規制値を満足している状況にあると考える。
- D委員 : これからのことを考えると、やっぱりやるべきではないかという意見である。
- 副会長 : そういう重金属について、水銀以外に関しては排ガスからガスをサンプリングするような吸引をして、フィルターでこして、そこに付着したばいじんの中にどの程度含まれているかを調べる形で検査、測定することは可能かと思う。それを年に何回か行う。そして、発表することは必要だと思う。
- 会長 : そういう意見もあったことを事務局で勘案していただきたいと思う。コスト的なところは判らないが、公害監視盤が複数設置されている例があるのか。例えば、両市役所にも監視盤があれば、市民が一番わかる場所である。
- 事務局 : 見学会でござんいただいた所沢市では、敷地境界に監視盤を設置するとともに、所沢市役所の中でも市民の皆さんが見られるようになっている。
- 会長 : 両市役所にも置けるといふことか。コスト的にはどうなのか。
- F委員 : ダイオキシンだが、年に2回ずつダイオキシンの調査を市民がやっている。年に1回の測定頻度ではあまりにも少なすぎる。
- 会長 : 排ガス調査についてか。
- F委員 : 簡単なダイオキシンの調査である。薬品を入れて、ダイオキシンがどのぐらいの量かというのは、ある程度正確にわかると思う。それをやっているのでも、それも参考にさせていただきたいとお願いしたい。
- 今、市民と行政とがばらばらに調査をしていて、無駄だと思うところもあり、そういう点で市民をある程度信用していただいて、参考の中に1つ入れていただきたいと思う。
- L委員 : 17ページの6番に地元協議会の理解と協力を得るため、説明会などを開催していくとある。こちらの表ではそれが無いが、素人は数値だけ見たのではよくわからなくて、地元への説明会を各組合などでやっていると思う。年に何回やるとか、そういった回数がかかるかと思うし、ここでも地元協議会が稼働後できると考えて良いか。その確認もしたいと思う。
- 事務局 : 多摩でも大方の自治体は地元協議会を設置しており、例えば四半期ごと、半年ごとに地元の皆様に測定値の報告を行っている。ふじみ衛生組合でも、

そのタイミングが来たら、地元協議会を設置し、当然のことながら地元の皆様に説明をしていきたいと思う。

(3) 本市民検討会でのまとめについて

【事務局説明】

会長 : 表記については、これからもう少し体裁等の整理をさせていただく形でまとめるほうが良いと思うが、この検討会で検討してきた大筋の方向づけについては、基本的に今まとめて説明があったとおりで、何か意見等はあるか。  
ないようなので、基本的にはこういう形で市民検討会の取りまとめを作成させていただきたいと思う。

5 その他

【事務局説明】

会長 : 答申ではないが、意見の取りまとめをしたものを報告という形で管理者へ渡すことになる。日程、スケジュール等が決まったら、会長、副会長のスケジュールを優先して調整させていただきたい。私としては、その折に市民委員の皆様も参加可能な方はぜひ一緒に話をする機会をつくっていただければと思う。そういう形で進めさせていただいて良いか。

(「異議なし」の声あり)

会長 : では、事務局に日程調整をお願いします。

【会長挨拶】

【副会長挨拶】

【事務局挨拶】

6 閉会

午後 8 時 5 5 分散会